

令和元年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術 内部評価結果・外部評価結果

計画期間(3年):平成29年度～令和元年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(=計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

戦略目標	達成度	アウトカム(成果)	各戦略の内部評価概要	外部評価	戦術	達成度	アウトプット(結果)	内部評価	外部評価
1 何度も利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)	2 ↓ 4	リピーターの割合 目標値:50→60% 実績値:57%	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターの割合が目標値の95%であったため、2とした。 ・今年度の展示観覧者数は191,881人と目標値の120%に達している。これは、ポタニカル展、1960年代展で示される一定数の割合のリピーターに加えて、ジブリ展、仏像展で新規の展示観覧者を多数確保したことにより、目標値を下回ったものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示(近藤喜文展や仏像展)では、多くの新規来館者を含め、目標を超える観覧者を得ることができた。 ・これらの新規来館者を基本展示へと誘導し、過去2年の観覧者数を上回ったことは評価できる。 ・目標値が未達成となった原因は、一方で遠方を中心に多くの「新規」来館者を獲得できたこと、他方で目標値の変更(引上げ)にあり、目標値に匹敵する(超える)成果が得られたと考える。 ・戦略目標である「展示の充実」に照らして開館年に次ぐ展示観覧者総数を獲得できたこと、「何度も利用していただく」に照らして新規来館者がリピーターの出発点であることを評価し、4とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 何度も利用していただくため、多様なテーマによる展覧会を開催します 2 基本展示を何度も利用していただくために、展示の更新や解説などを実施します 3 親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、こども体験展示室の利用を促進します 	<ul style="list-style-type: none"> 3 ↓ 4 3 ↓ 4 2 	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会の観覧者数 目標値:95,000人 実績値:113,137人 基本展示の観覧者数 目標値:65,000人 実績値:78,744人 利用者数 目標値:75,000人 実績値:53,349人 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を達成したので3とした。 ・多様なテーマで企画展を開催したことにより、幅広い年齢層の観覧者を獲得できた。「ポタニカル・デザイン」展は、4～12歳が39%を占め、「1960年代の熱気…」展と似た傾向を示した。また、「この男がジブリを支えた」展では13～34歳が34%を占め、来館者数値の低い年齢層へのアプローチができた。「三重の仏像」展では、50歳以上の来場が60%を記録し、年間を通して世代を越えて楽しむことのできる展示を提供できた。 ・目標値を達成したので3とした。 ・文化庁事業の取り組みの一つとして、御師をテーマとした社会科の教材、授業案等を作成した。 ・偶数月に、各学芸員が基本展示室のおすすめを解説するスポットガイドを実施し、54名の参加があった。 ・目標値を達成できていないので2とした。 ・これまで展示室が適正人数以上になることで、ケガなどのトラブルが課題となっているため、ひきつづき目標値の見直しを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展でのアウトプットの達成率119%から、4とした。 ・ポタニカル展や1960年代展では、75%前後のリピーターを獲得し「何度も利用」を実現できた。 ・近藤喜文展や仏像展では、リピーターに加えて、多くの新規来館者(過去最多来館者数)を獲得できたことも評価できる。 ・基本展示のアウトプットの達成率は121%で、じゅうぶん達成していることから、4とした。 ・一方で、その主因が企画展との共通券によるもので、必ずしも戦略目標とした「展示の更新や解説」とは考えにくく、戦術の取組と乖離があることは注意を要する。 ・コロナ禍の影響(2・3月)を考慮しても達成率は80%となり、目標が達成できたとは言えず、2とした。 ・安全確保のための基準を明確にしたうえで、適正な目標の再設定が必要である。

戦略目標	達成度				戦術	達成度				
		アウトカム(成果)	各戦略の内部評価概要	外部評価			アウトプット(結果)	内部評価	外部評価	
博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します(集客)	4 ↓ 3	一般のMieMuの知名度(県政eモニターのアンケートで実施) 目標値:75% 実績値:78%	<ul style="list-style-type: none"> eモニターの結果では県全体の認知度は78%であり、前年度と同程度であったため4とした。 ジブリ展や仏像展では県外からの来館者が多く、仏像展ではゲーム会社や寺院等とのタイアップイベント等によって集客につながった。 津地域以外については、認知度が若干低い傾向があるため、今後も周知が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> eモニターの結果は目標値を上回ったものの、実質の数値は前年度の80%を下回った。 また、過去の経過を辿ると、前年度までの増加傾向から減少に転じている。 数値の性格上、累積され上昇または維持されることが通常と考えられることを考慮し、3とした。 	4	メディアに報道してもらうため、メディア向け説明会や内覧会を行います	4 ↓ 3	説明会・内覧会に参加したメディア数(通年累計) 目標値:20社 実績値:20社	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成したので4とした。 記者クラブだけでなく、地方新聞やケーブルテレビ、地域情報誌等にも情報提供を行うことにより、取材やイベント情報等を掲載してもらうケースが増えた。 5周年事業の企画展2本については、知事のぶらさがり会見や開会式への出席や展覧会見学などの情報提供も行うことにより、記事掲載等が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から見て、3とした。 メディアに取り上げてもらうため、後追い取材の要請も含め、様々な工夫していることは評価できる。
					5	博物館の活動を知っていただくために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます	4	閲覧数(トップページ累計) 目標値:310,000→320,000回 実績値:468,701回	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成したので4とした。 週末ごとにイベントをトップページに乗せるなど、利用者が知りたい情報にアクセスしやすくする工夫を行った。 ジブリ展では、初めて展覧会専用のアカウントを使用して混雑状況を発信するなど、新たな取り組みを行った。 新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館では、普段は見ることができないオオサンショウウオ水槽の清掃など、博物館活動の周知にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標の閲覧数を遥かに超える実績が得られたことから、4とした。 時代の要請に対応したSNSによる情報発信の強化は、企画展でのリピーターの情報源となるなど、効果をあげている。 コロナ禍以降では、「MieMu@ほーむ」など専用ページを開設し、動画配信など効果的な情報提供ができた。
					6	県内の子どもたちに知ってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います(チラシ配布の他、連携事業を含む)	3 ↓ 4	連携事業への参加者数 目標値:100→150人 実績値:1,707人	<ul style="list-style-type: none"> 結果目標(連携事業参加者数)は達成したが、成果目標(高校生以下の観覧者数)が達成しなかったため3とした。 ジブリ展では県内小中高等に子ども用チラシを配布した結果、高校生以下の多数の来館者の確保につながった。 県総合教育センターとの共催で「教員のための博物館の日」を実施するなど、教員向けの周知活動は充実してきたが、学校利用において、校園数、来館者数ともに前年度に比べて減少しているため、周知活動を強化していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を大きく上回る連携事業への参加者を得ることができたことから、4とした。 参加者数だけではなく、さまざまな種類の事業を、子どもたちだけでなく、教員も対象に実施できたことも評価できる。

戦略目標	達成度				達成度					
		アウトカム(成果)	各戦略の内部評価概要	外部評価		戦術	アウトプット(結果)	内部評価	外部評価	
3 「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します(連携)	3	参画者数(MP数・企業数・ボランティア数) 目標値:310名20社 実績値:343名22社	<ul style="list-style-type: none"> ・参画者数が目標値を上回ったため、3とした。 ・ミュージアムパートナー(MP)は、会員数が目標値の111%を達成。MPフェスタを来館者の多いイベントと同時開催としたことで、活動を周知することができた。また、フィールドワーク等、参加者に好評な事業も定期的に実施。 ・企業との協働は、開館以来継続して連携事業を蓄積した結果、企画展を含む多様な連携事業が実施できた。また、満足度も高かった。 ・ボランティア活動は、分野と内容の再検討を実施し、登録者数が増加したものの、10月からの開始となり、活動回数は目標値を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とした人数や団体数を確保できたことが、博物館の機能向上(県民との協働や集客)に繋がっていると判断できる。 ・企業の参画については、コーポレーションデーをはじめ、充実した内容と評価できる反面、企業数は経年変化を見ると減少に転じている。 ・懸案のボランティア登録者を増やすことができたことは、ミュージアムパートナー事業とあわせて、評価できる。 ・目標値に達したものの、実質的には減少傾向にあることを考慮し、3とした。 ・本来の目的である「協働」や「活性化」の実現・充実を期待したい。 	7	博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します	4	登録者数 目標値:280人 実績値:311人	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を達成したので4とした。 ・ミュージアムパートナーフェスタを来館者の多いイベントと同時開催としたことで、ミュージアムパートナーの活動を周知することができた。 ・フィールドワークは、参加者に特に好評な事業となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間、同じ目標値を掲げながら未達成だった登録者数を、目標を超えて確保できたことから、4とした。 ・今後は、事業の回数やその内容も考慮した指標とする必要がある。
					8	活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します	4	協働した企業数 目標値:20社 実績値:22社	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を達成したので4とした。 ・昨年度は企画展の資金確保の目的から、多数の企業連携を行ったため、超過勤務を含めて業務過多となったが、本年度は、他の業務に悪影響を及ぼさない範囲で努力し、目標値を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を超えて達成でき、4とした。 ・コーポレーションデーなどで多くの一般参加者を得たことは、館にとっても、企業にとっても大きな貢献と評価できる。
					9	市民の参画を促進するために、ボランティア活動の活性化を図ります	2 ↓ 4	登録者数 目標値:30人 実績値:32人	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を達成したが、上半期活動できず活動回数が少ないため2とした。 ・ボランティア登録者と懇談を実施し、活動分野と内容の検討し、来館者対応、図書整理、フィールド管理の3分野を公募とし、非公募で資料整理の4分野で活動することとした。そのため、10月からの活動開始となり、活動回数は目標値を大きく下回る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録人数が、前年度は激減(39人→21人)したが、今年度は32人まで回復してアウトプットの目標値を上まわったことから、4とした。 ・「活性化を図る」という目標達成に向け、内容を検討する機会を持ち、制度の再検討をしたことが結果につながったと評価できる。
4 博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収集資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)	2	地域の保存・保全方法の改善内容・効果(保存分野の学芸員によるレビュー)	<ul style="list-style-type: none"> ・収集資料の保全ができ、また企画展を通しての地域の文化財等保全の重要性喚起はできたが、指導助言は目標を下回ったため、2とした。 ・収蔵庫内での文化財害虫の発生は報告されていない。毎月、収蔵庫の清掃・点検を実施し、清掃の効果とともに、保存環境の確認と資料の異常等の早期発見につながる取り組みが行えた。 ・地域の文化財等の保全に関する指導・助言が目標の4割程度にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員を配置し、館蔵資料の保存・保全のため、継続的に注力していることは評価できる。 ・企画展等を通じて、地域の文化財保全の重要性について啓発ができたことは、県立施設としての役割を果たしている。 ・しかしながら、指導・助言の記録に不備があり、例年と比較しても達成件数が少なく、2とした。 ・正確な記録に基づいて目標を達成することを通じて、県立博物館としての使命を果たすことを期待する。 	10	収蔵資料を保存・保全するために、収蔵庫および展示室の定期的な清掃・点検を行います。	4	収蔵庫の文化財害虫の捕獲数 目標値:0匹 実績値:0匹	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したので4とした。 ・開館日毎日の清掃実施に加え、基本展示室、こども体験展示室のジオラマ等の専門清掃及び、日直職員による目視点検を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や委託業者の協力を得ながら日常的な清掃・点検に努めた結果、捕獲数「0」を達成できたことから、4とした。
					11	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、指導助言を行います	1	指導助言件数 ※主に機関 目標値:100件 実績値:41件	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に達しなかったので1とした。 ・対応記録の不備(記録漏れ)に起因する可能性がある。定期的に記録をチェックするなど、実績の把握と共有を確実に行う仕組みづくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助言・指導の記録の不備があったにせよ、実績が目標を大きく下回ったことから、1とした。 ・記録の徹底と、助言・指導のあり方を再考する必要がある。
5 三重に関する資料や、博物館活動の学術的価値づけとその意義を伝えるために、総合博物館の強みを活かした研究に取り組みます(研究)	3	協議会委員によるレビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸ゼミの発表数、外部への成果公表件数ともに目標値を上回っている。さらに深化させるために研究を推進できる体制や時間配分などの環境整備を進められ、研究をすすめて欲しい。 ・多様な主体の参加型調査については、多くの参加者がある。しかし、参加者に偏りがあるため、他の組織と協力して、博物館の目指す参加型調査を示してほしい。 ・資料閲覧データベースの拡充については、意識を新たにして取り組まれたたい。 ・調査・研究を進めるにあたり各学芸員等が研究、調査、公開資料準備等の業務マネジメントを行い、円滑にすすめることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開館以来、さまざまな業務に携わらなければならない中で、「後回し」の感が強かった調査・研究事業が、ようやく緒についてきたと評価でき、3とした。 ・引き続き、業務の効率化とともに開館時間の短縮などによって生み出した調査・研究のための資源を、有効に活用することを望む。 ・「総合博物館としての強みを生かした」他所にはない成果を生み、展示はもとより、データベースの充実や報告書の刊行などを通じて、広く県民に還元されることを期待したい。 	12	学芸員による研究活動を推進するために、定期的な発表機会を設けます	4	学芸ゼミによる発表件数 目標値:12件 実績値:12件	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したので4とした。 ・研究成果の館内発表である学芸ゼミの発表数(アウトプット)は目標値12件に対して実績12件と目標を達成するとともに、ミュージアムパートナーやボランティアに公開できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の回数を、定期的に達成でき、総合博物館を目指す取組がみられたことから、4とした。 ・研究時間が確保できたことから、今後は、回数や内容の拡充も検討して欲しい。
					13	多様な主体が研究に参画するために、参加型調査を行います	4	調査への参加者数 目標値:60人 実績値:103人	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したので4とした。 ・参加型調査の推進では、実績123人と目標を上回ることができた。参加者属性の多様性は、年齢層、参加する地域はに偏りが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を大きく上回る参加者を得ることができたことから、4とした。 ・参加者に年齢や地域による偏りが見受けられるので、広報を含め、実施場所・体制等の工夫が求められる。
					14	資料の活用を促進するために、収蔵資料データベースの充実を図ります。	3 ↓ 4	収蔵資料データベースの閲覧回数 目標値:5,000回 実績値:5,335回	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したので3とした。 ・資料データベースの充実では、資料データベースの閲覧回数(アウトプット)は目標値5,000回に対して実績5,335回と目標値は達成できたが、資料閲覧数(アウトカム)は目標値1,200点に対して実績1,019点と目標は達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット(結果)の目標を超える閲覧回数が得られたことから、4とした。 ・閲覧の基礎となるデータの登録も、昨年度の57件から1,215件と大幅に増加したことは、今後の活用に向けて評価できる。

戦略目標	達成度				戦術	達成度				
		アウトカム(成果)	各戦略の内部評価概要	外部評価			アウトプット(結果)	内部評価	外部評価	
6 MieMuが利用者にとって知的好奇心を心地よく刺激する場となるように、学習支援機能の向上に努めます(学習支援)	3	アンケートの自由記述から、MieMuを一言で「学習・学びの場」であると回答した割合 目標値:10% 実績値:10%	<ul style="list-style-type: none"> 実績値が目標値と同値であったため、3とした。 今年度は冬の企画展が14%と最も高かった。過去のデータでは、秋の割合が高い傾向(H30 武四郎14%、H29発掘14%、H28忍者13%)にあるが、今年度は11%。 夏は特に集客に重点を置いた展示のためか、4%と低い。(H30おもちゃ10%、H29のりもの9%、H28大変動の地11%)。 春は12%と目標値を上回り、また、昨年度(11%)よりもやや上昇しているが、過去と比べて低い(H29カモシカ14%、H28伊勢志摩18%)。 基本展示は、昨年度9%と最も低かったが、今年度は12%となり、過去とほぼ同じ数値に復している。今後も経過観察が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習・学びの場」を提供するために多くの利用方法を試されており、その成果も上がってきている。 実績値が目標値と同値であったため、3とした。 アウトカム(成果)にある「一言で」については、「学習・学びの場」とともに、「魅力」や「おもしろさ」といった観点からの集計、さらには、年齢階層ごとの分析も必要と思われる。 	15	利用者の身近な疑問に応えるために、レファレンス業務を行います	4	質問対応件数 ※主に個人 目標値:300件 実績値:364件	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成したので4とした。 利用者からの身近な疑問や相談について担当学芸員が回答や相談にのり、利用者の学習支援向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を上回る質問に対応できたことから、4とした。 疑問が解消した割合が96%にまで達したことは、丁寧な対応の結果と評価したい。
					16	学校利用を促進するために、学校や教員を対象とした学習支援プログラムを行います	1 ↓ 2	利用学校数 ※アウトリーチも含む 目標値:230校 実績値:171校		
7 経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します(経営)	3	各事業のコスト・パフォーマンスの改善(定性) (副館長レビュー)	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な運営を実施するために、開館時間や展覧会の開催本数を見直しを行った。 評価制度に基づく課題の改善にかかる進捗管理を定期的実施したが、改善が進まない取り組みもあるため、3とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 左の内部評価結果(第1項目)にあるこれまでの取組の成果、戦術17の進捗管理の状況、本評価の戦術7・9・14のような明らかな改善が見られることから、3とした。 	17	事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います	3	確認によって判明した課題の件数 10件	<ul style="list-style-type: none"> 四半期ごとに進捗管理(年3回)を実施し、進捗状況について全体会議で共有することができた。 課題が明確になり、改善策や取り組み方針について、全体会議で協議し改善の強化を図ったが、改善への進捗状況がよくない取り組みもみられるため3とした。 	<ul style="list-style-type: none"> アウトプット目標が示されていないため、厳密には評価できないが、定期的な進捗管理(年3回)が実施され、「課題が明確」となっていることから、少なくとも「できた」と評価すべきであり、3とした。

【達成度】(※4段階評価:1. 達成できていない(20点以下)、2. どちらかというと達成できていない(21~49点)、3. どちらかというと達成できた(51~79点)、4. 達成できた(80点以上)、×. 評価できず)

○戦略外の評価項目

- 評価士による評価制度に対するレポート

○評価体制

内部評価 : 内部評価委員会(中世古・瀧川・星野・寺村・中村)

外部評価 : 博物館協議会評価部会

評価結果を報告、意見聴取

→博物館協議会

○用語

- 戦略目標: 計画期間中、重点的に目的を持って取り組むこと
- 戦術: 戦略目標達成のために、具体的に取り組むこと

評価者の階層	①自己点検評価 → ②内部評価 → ③外部評価
評価者	館担当課・者館内部評価委員会 → 博物館協議会評価部会
評価作業内容	<ul style="list-style-type: none"> 指標データ整理・評価結果(価値判断) 評価結果(価値判断)・改善視点

○マネジメントのしくみ

